

コロナ禍における学生生活に関するアンケート結果について

2021.10 教育室

新型コロナウイルス感染症の拡大は、学生のキャンパスライフに大きな影響を及ぼしています。昨年度(2020年度)の第1ターム(4/8~6/15)においては、緊急事態宣言を受け、すべての授業をオンラインで実施し、その後は、感染状況を考慮しながら、徐々に対面で行う授業を増加させました。

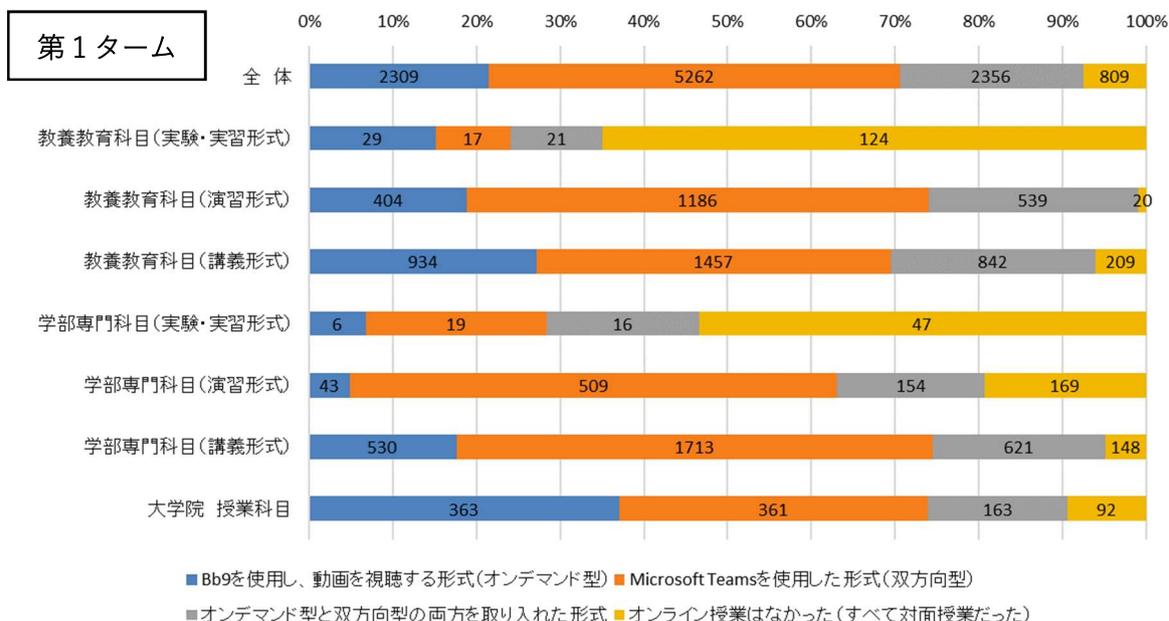
しかしながら、今年度(2021年度)に入り、再び広島県に緊急事態宣言(5/16~6/20)が発出されたことに伴い、第1ターム(4/8~6/8)・第2ターム(6/9~8/5)の第1タームの途中から原則オンラインでの授業を実施しました。第3ターム(10/2~11/30)は、緊急事態宣言(8/25~9/30)の解除を受けて、原則対面での授業を実施し、各授業の特性や内容に応じオンラインも併用し、教育効果の高い授業を実施しているところです。

このような状況において、昨年度に引き続き、学生生活の実態を把握し授業方法等の改善及び学生の心身の健康維持に必要なサポートを充実させるため、アンケートを実施しましたので昨年度との比較も交えながら結果をご報告します。

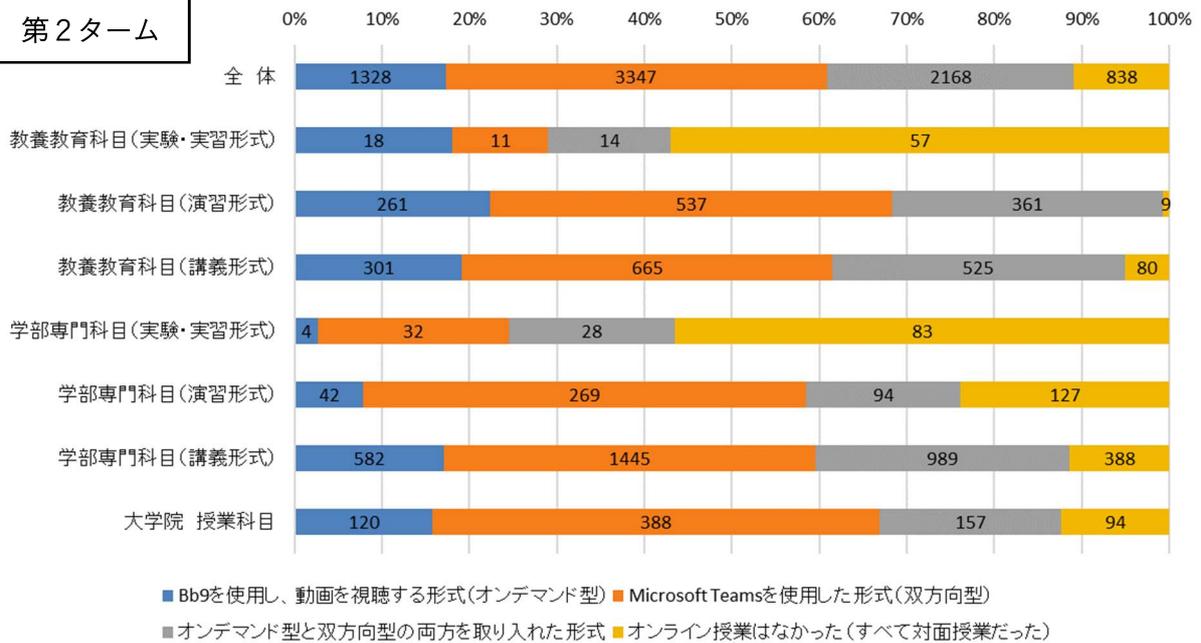
学生による授業改善アンケート(オンライン授業に関する設問抜粋)

- ・実施期間：2021年5月14日(金)~6月9日(水)
2021年7月17日(土)~8月5日(木)
- ・実施方法：オンライン入力フォームにより実施
- ・対象科目：第1ターム及び第2タームに開講された全科目
- ・対象者：第1ターム及び第2タームに在籍した学生
- ・回答者数：(第1ターム)のべ10,736名、(第2ターム)のべ7,681名

●問1 オンライン授業の形態は次のうちどれにあてはまりますか。



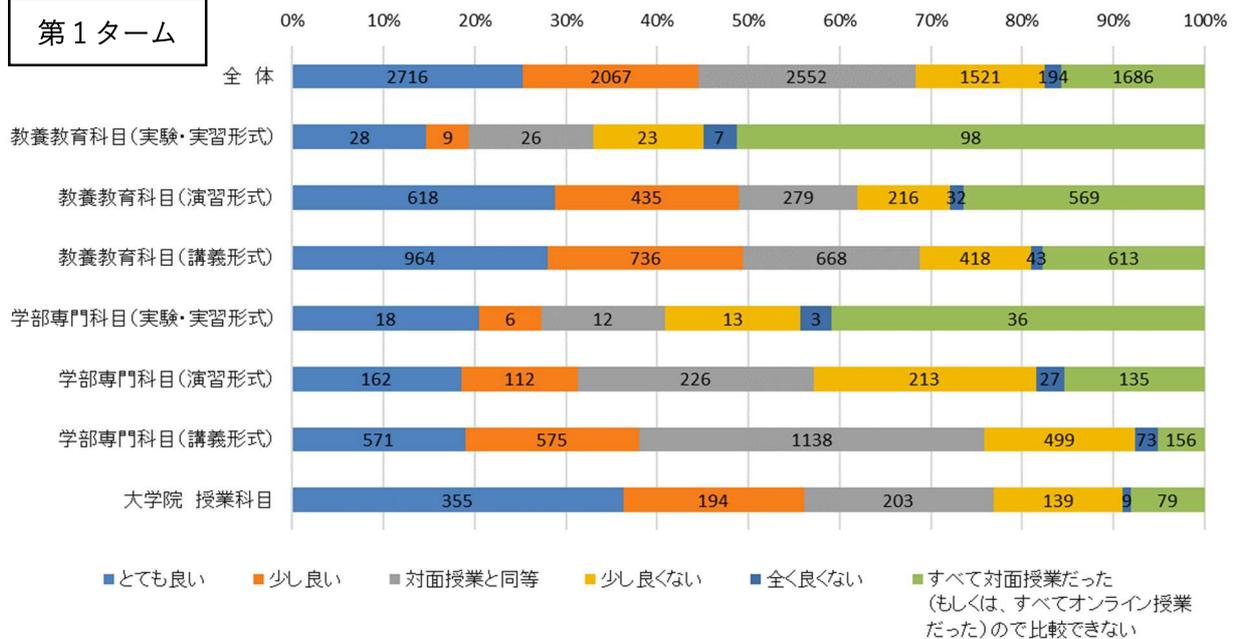
第2ターム



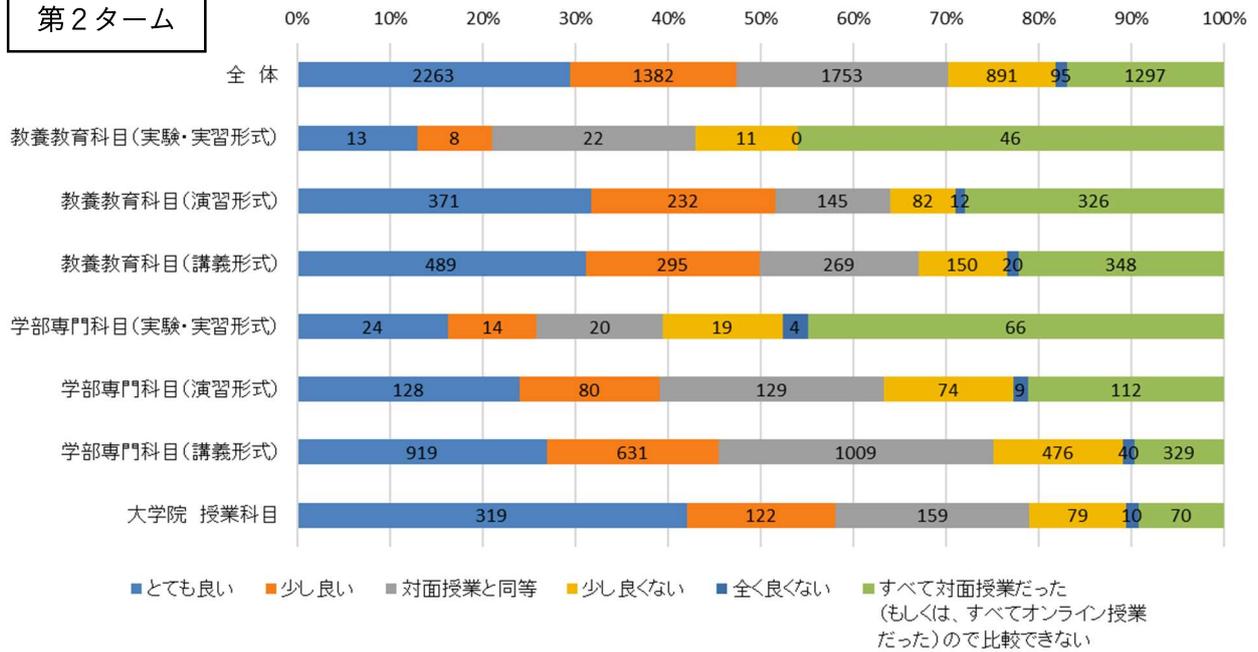
昨年度（2020年度）第1タームでは「オンデマンド型」と回答した学生は全体で51%、「双方向型」と回答した学生が36%でしたが、今年度（2021年度）第2タームでは「オンデマンド型」が17%、「双方向型」が44%となっており、「オンデマンド型」が減少し「双方向型」が増加しました。

●問2 通常の対面授業と比較して、オンライン授業はどのように感じましたか。

第1ターム



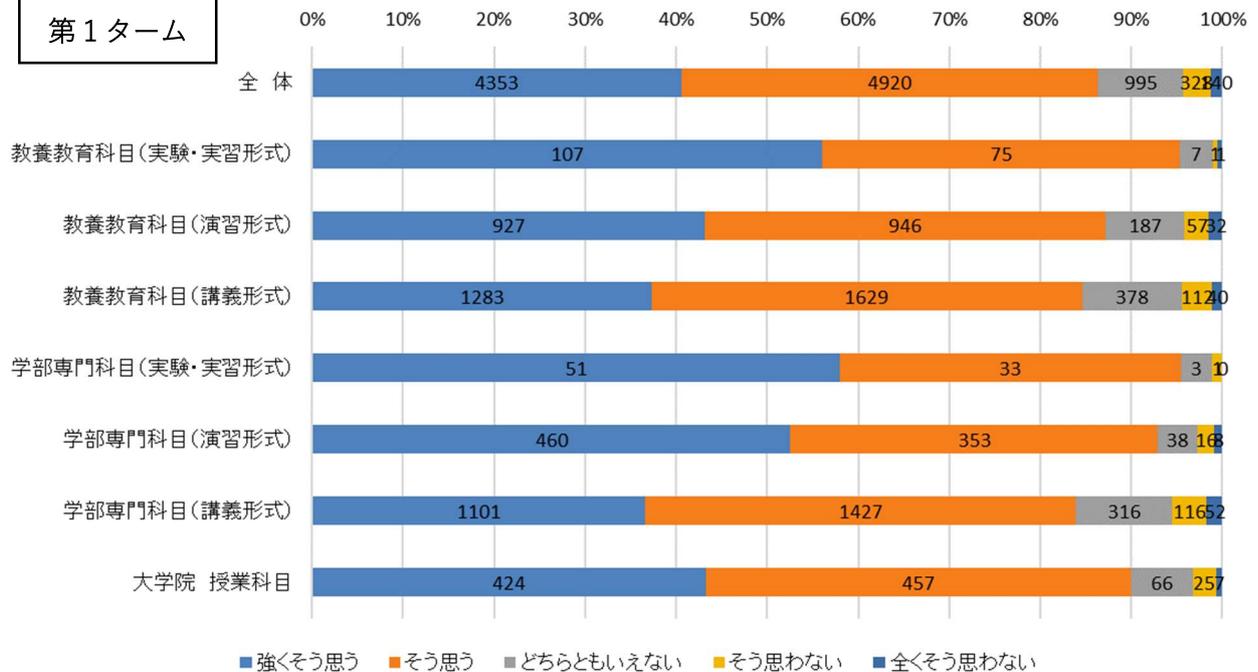
第2ターム

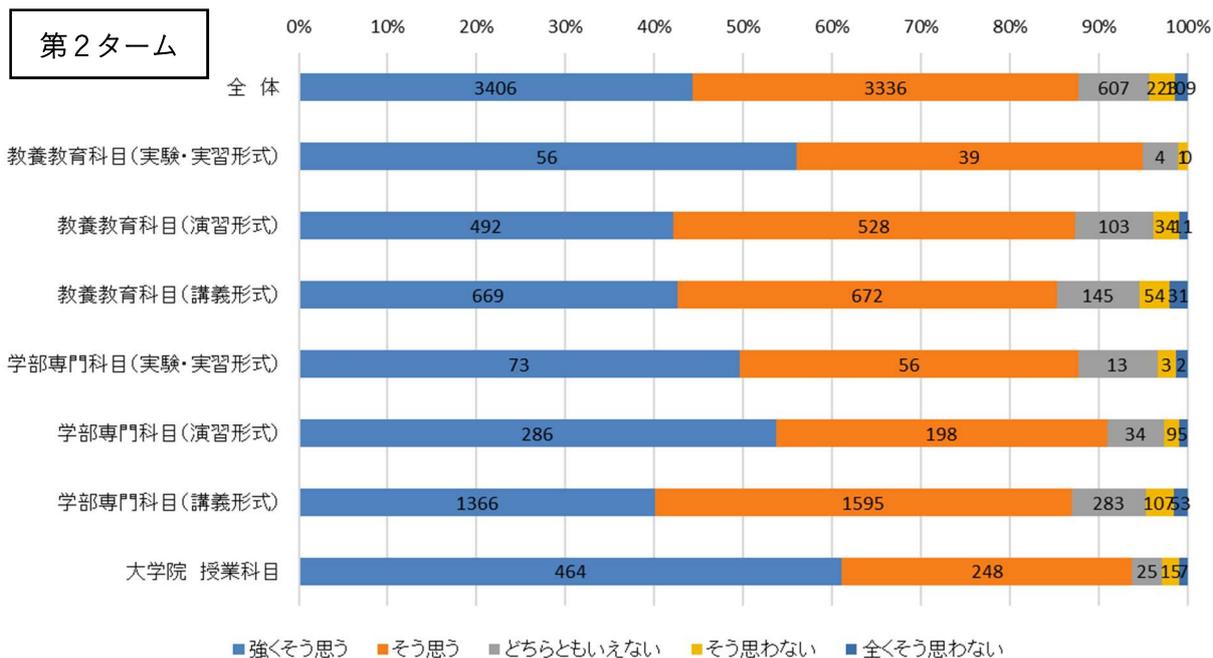


昨年度(2020年度)第2タームでは「少し良くない」「全く良くない」と回答した学生は全体で20%でしたが、今年度(2021年度)第2タームでは13%と減少しました。

●問3 総合的に判断してこの授業に満足しましたか。

第1ターム





昨年度（2020年度）第2タームでは「強くそう思う」「そう思う」と回答した学生は全体で83%でしたが、今年度（2021年度）第2タームでは88%と増加しました。

（概要と対応）

昨年度（2020年度）に比べ今年度（2021年度）は「オンデマンド型」の授業が減少し、「双方向型」や「オンデマンド型と双方向型の両方」の授業形態が多くなりました。また、授業の満足度においては、昨年度に比して満足した学生（「強くそう思う」「そう思う」）が増加しました。

昨年度、特に第1タームはオンライン授業が初めての教員も多く手探りで実施せざるを得ない状況でしたが、学内での研修会の実施や昨年度からの経験の蓄積等により、各授業の特性や内容に応じてオンラインも併用し、より教育効果の高い授業とする工夫・改善が進んだ結果と考えられます。

広島大学では、今後も感染防止対策を徹底した上で、各科目の特性や内容に応じてハイブリット方式（対面授業・オンライン授業の併用）など、それぞれの特徴を活かした授業を実施します。

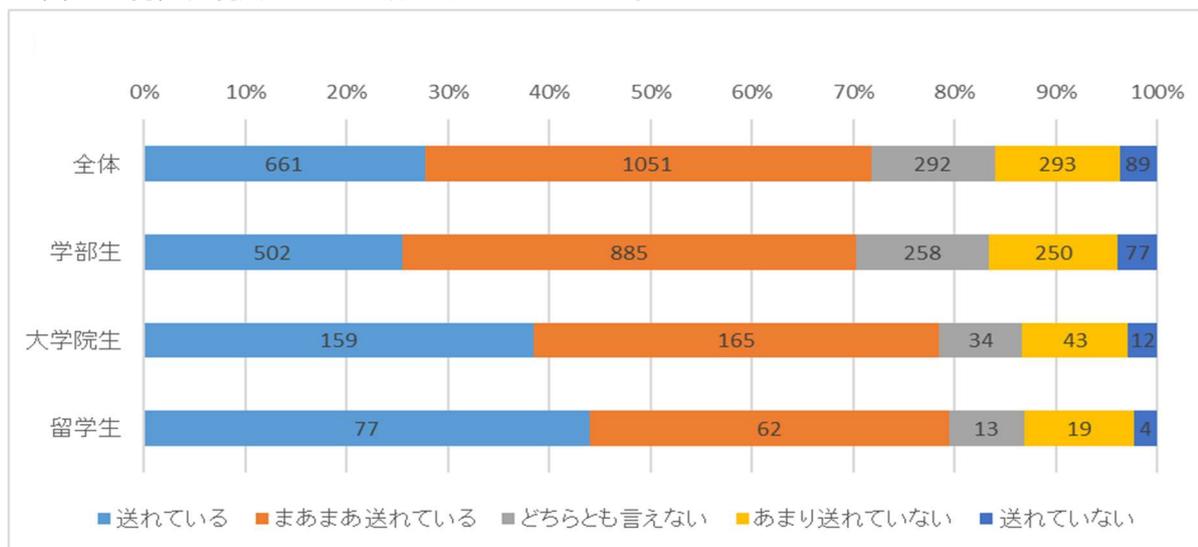
学生生活に関するアンケート

- ・実施期間：2021年6月17日（木）～7月7日（水）
- ・実施方法：オンライン入力フォームにより実施
- ・対象者：学部生・大学院生・専攻科生（休学中の学生を除く）
- ・回答者数：2,386名

【内訳】学部生 1,972名／大学院生 413名／専攻科生 1名／留学生 175名（内数）

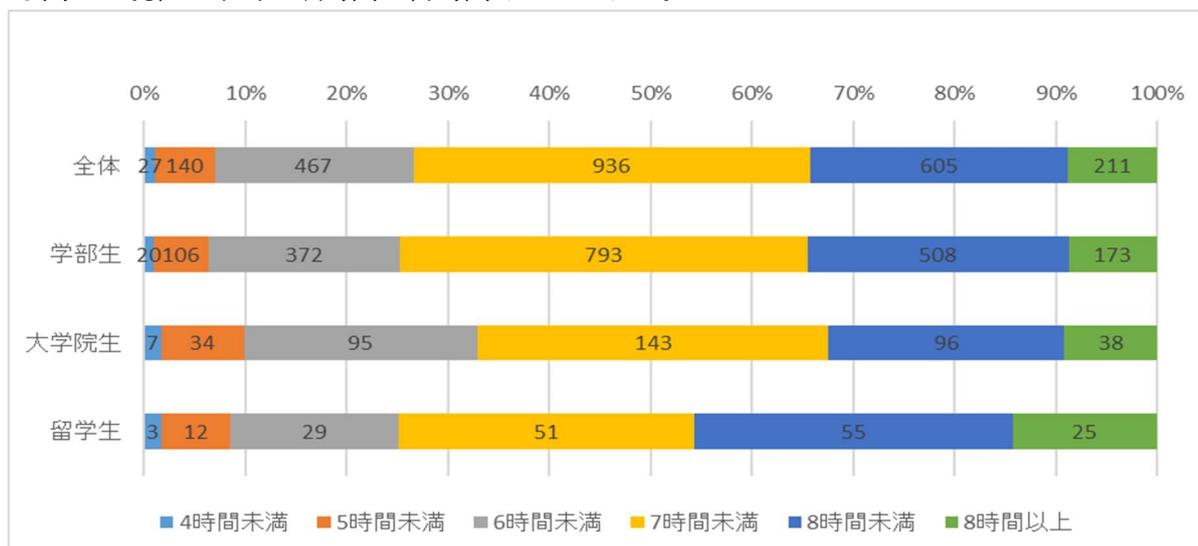
※専攻科については、回答者数が1名のため、個別の調査結果を表示していない。

●問1 現在、規則正しい生活が送れていますか。



全体で「送れている」「まあまあ送れている」と回答した者が、昨年度（2020年度）は74%でしたが、今年度（2021年度）は72%と少し減少しています。また、昨年度同様、大学院生、留学生に比し、学部生の規則正しい生活が「送れている」者の比率が低くなっています。

●問2 現在の平均睡眠時間は何時間ぐらいですか。



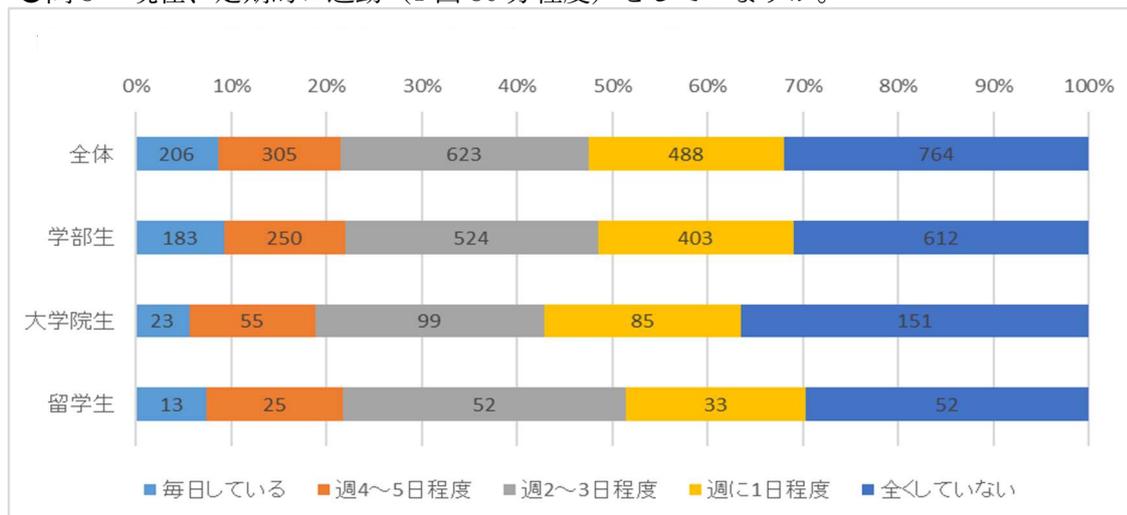
全国の大学生の調査結果（注）によると、大学生の平均睡眠時間は男性 6.50 時間、女性 6.40 時間

となっています。昨年度(2020年度)および今年度(2021年度)の調査では「6時間以上7時間未満」が最も多く、「学生の健康白書」の結果とほぼ変わらない結果となっています。ただし、「6時間未満」の学生の比率が、昨年度の22%から27%と増加しています。

(注)「学生の健康白書 学生と保健管理スタッフのためのダイジェスト版2019」

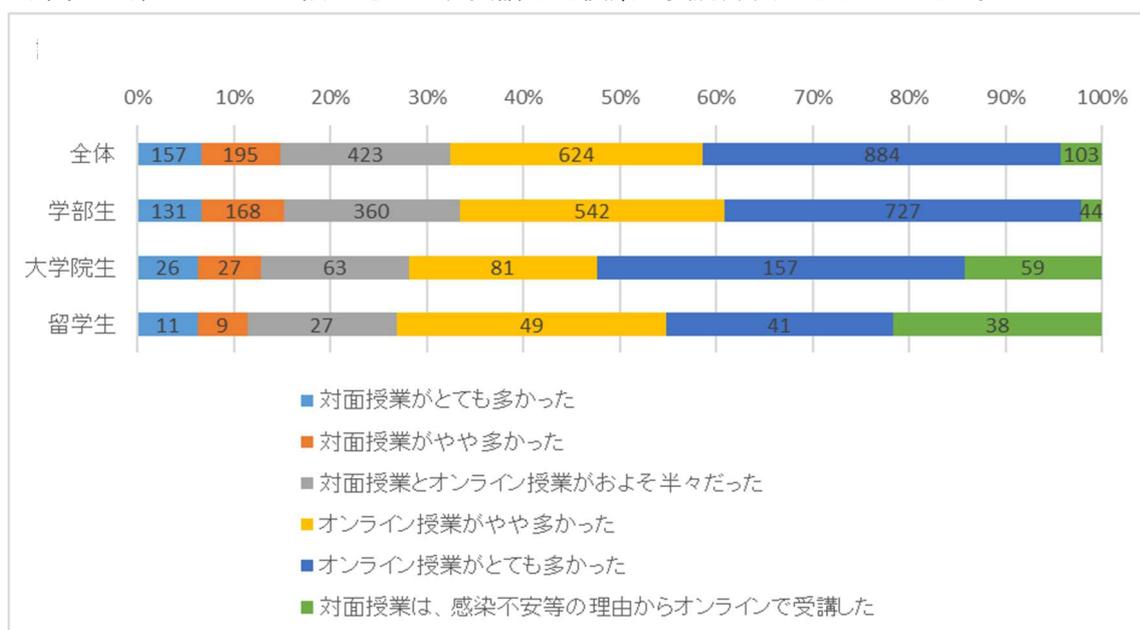
<http://www.htc.nagoyau.ac.jp/wp-content/uploads/2019/11/hakusho2019.pdf>

●問3 現在、定期的に運動(1回30分程度)をしていますか。



全国の大学生の調査結果(上記注)によると、運動習慣のある大学生は男性67.77%、女性53.61%となっています。昨年度(2020年度)の調査では、運動習慣がある(「週1日程度」以上運動している)学生は全体で70%でしたが、今年度(2021年度)は68%と減少しています。

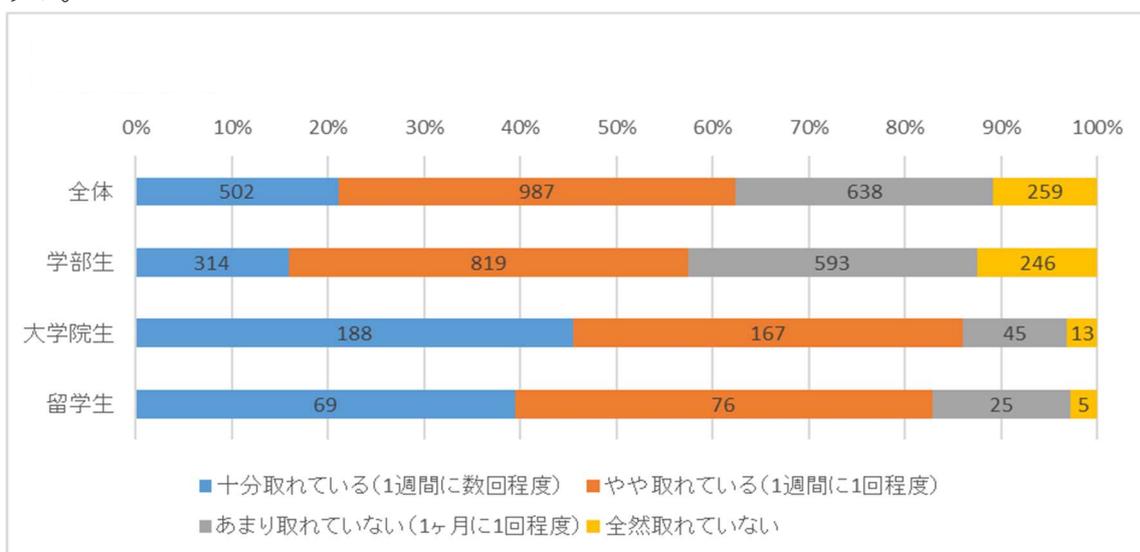
●問4 第1タームを振り返って、受講した授業の実施方法はどうでしたか。



この設問は、実状というよりも、授業の実施方法に関する主観的な印象を尋ねたもので、学生が印象として抱いている授業の実施方法と、学生の体調(特にメンタル面)に相関関係が見受けられるのかを確認することを目的として、今年度(2021年度)のアンケートで追加した項目です。

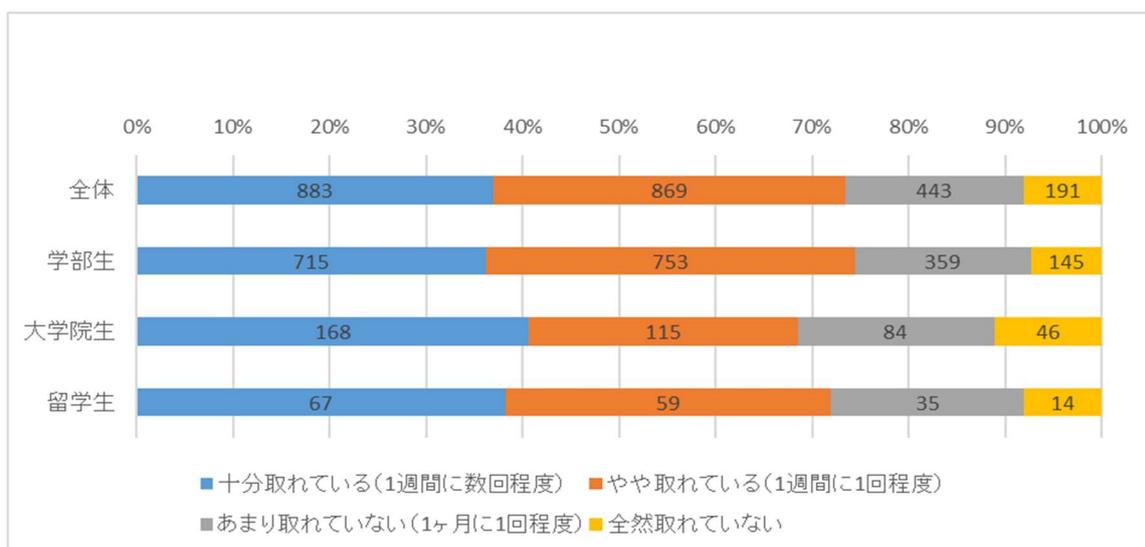
アンケートを実施したのは、広島県に発令中の「緊急事態宣言」が解除される直前および直後の時期にあたります。「緊急事態宣言」により、第1ターム後半から第2ターム前半の授業は原則としてオンラインで実施されたことから、学生にはオンラインが強く印象に残ったように考えられ、「オンライン授業がやや多かった」「オンライン授業がとても多かった」と回答した学生が全体の6割を超える結果となりました。

●問5 第1タームにおいて、指導教員やチューターとコミュニケーションが取れていたと感じますか。



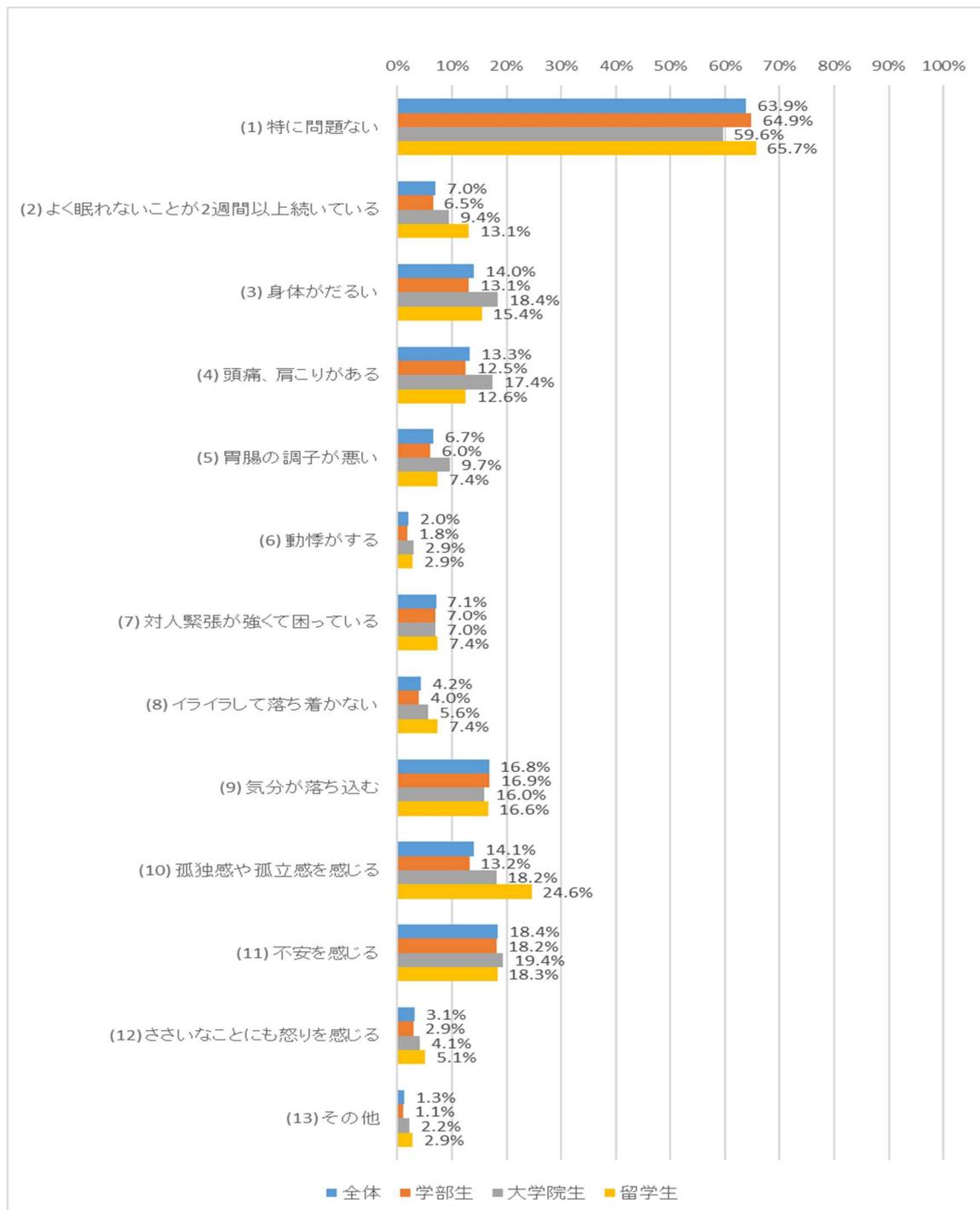
大学院生・留学生は8~9割が「十分取れている」「やや取れている」と回答し、昨年度(2020年度)より増加しています。学部生については、「十分取れている」「やや取れている」と回答した学生は5割強で、昨年度より増加しています。

●問6 第1タームにおいて、同級生や友人とコミュニケーションが取れていたと感じますか。



同級生や友人とのコミュニケーションについては、学部生は7割以上が「十分取れている」「やや取れている」と回答しており、大学院生、留学生とも昨年度(2020年度)より増加しています。

●問7 現在の健康状態はどうか。(複数回答可)

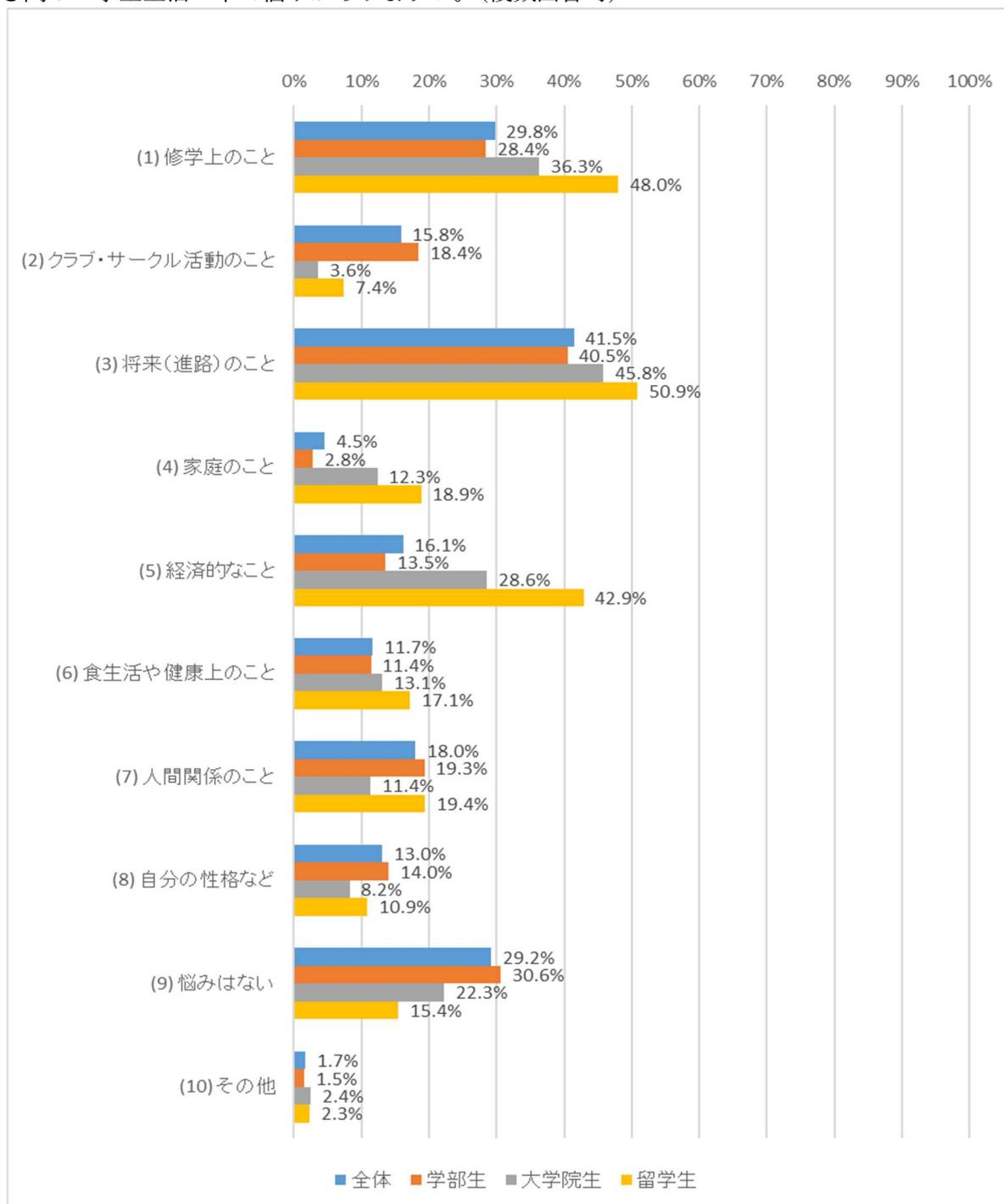


健康状態について、「特に問題ない」と回答した学生が全体で64%と、昨年度(71%)より少なくなっており、全体的に各項目が少しずつ増えています。

睡眠について6~13%の学生が、「よく眠れないことが2週間以上続いている」と回答しており、特に留学生にその割合が高いという結果でした。

「頭痛、肩こりがある」「胃腸の調子が悪い」という身体症状は大学院生に多く見受けられ、「気分が落ち込む」や「不安を感じる」は学部生・大学院生・留学生とも、16~18%認められます。また、「孤独感や孤立感を感じる」については、留学生が25%と多い結果となりました。

●問8 学生生活の中で悩みがありますか。(複数回答可)



学部生は、悩みについては多い順に「将来（進路）のこと」「修学上のこと」「人間関係のこと」と、昨年度と同様でした。大学院生と留学生は「将来のこと」「修学上のこと」に加えて「経済的なこと」が多く、特に留学生は4～5割の学生が前述の悩みを抱えており、前年度より増加していました。

(概要と対応)

学生生活の悩みについて、「将来（進路）のこと」「修学上のこと」をあげた学生が多かったという結果でした。学生が学部や研究科の域を越えて、大学での学修や生活上の悩みを同級生や上級

生に気軽に話せる機会となるよう、新入生同士や上級生と新入生を交えた懇話会を開催しました。今後もこのような企画を定期的で開催し、日ごろの不安や疑問等について気軽に相談できる機会を設けます。また、各種相談窓口（保健管理センター、教育学習支援センター、ピアサポートルーム等）を積極的に利用してもらえよう、繰り返し情報を提供します。

健康状態については、不安（18%）、孤独感や孤立感（14%）、気分の落ち込み（17%）などのこころの状態の項目で昨年度より増加している傾向にありました。自粛生活が長いと生活リズムの乱れから様々な自律神経症状が出現することもあります。こころや体の健康管理については保健管理センターがサポートします。保健管理センターで実施している対処法について、今後も広く紹介していきます。

広島大学では、今後も学生の皆さんが安全に、また安心して大学生活を送り、十分な学修の成果をあげられるよう、最大限努めてまいります。